

南米の日本語教育実践報告

95

【パラグアイ】 秋山碧 (アマンバイ日本語学校)

日本語教育実践報告（パラグアイ）

-アマンバイ日本語学校-

秋山 碧

アマンバイ日本語学校

〔キーワード〕 アマンバイ日本語学校の歩み、新しい取り組み

1 パラグアイ日本語学校の歴史

アスンシオン日本語学校 1967 年、アマンバイ日本語学校 1956 年、イグアス日本語学校 1963 年、エステ日本語学校 1969 年、エンカルナシオン日本語校 1963 年、チャベス日本語学校 1955 年、日本パラグアイ学院 2001 年、ピラボ日本語学校 1999 年（4 校の統合）、ラ・コルメナ日本語学校 1936 年、ラパス日本語学校 1988 年（3 校の統合）

パラグアイにある 10 校の学校の一つである。

2. アマンバイ日本語学校と町

ブラジル、マットグロッソ州ポンタ・ポラン市という町と国境にある、アマンバイ県ペドロ・フアン・カバリエロ市にある日本語学校。日本語学校はパラグアイ側にある。

日本人会の会員は約 90 世帯。首都アスンシオンから約 457Km 離れたところである。

2.1 使われている言語

スペイン語・ポルトガル語・グアラニ語は日常生活の中でよく聞いたり話したりする。

そのほか、英語の学校に通っている子は英語が話せる。つまり、4 言語を自然に耳にすることができる。

2.2 移住 60 周年記念祭

1956 年移住し、昨年 60 周年を迎えた。

2.3 アマンバイ日本語学校組織構図

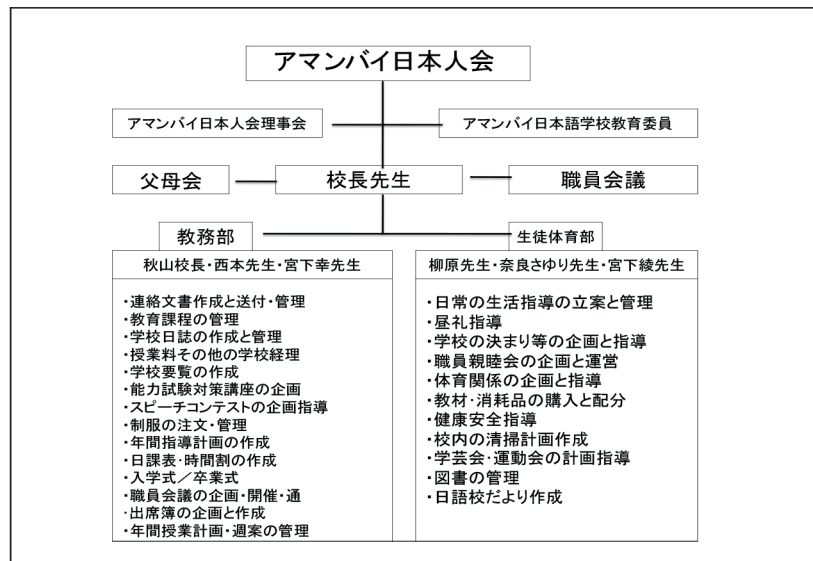


図1 アマンバイ日本語学校組織構図

2.4 日本語学校生徒数

昨年ごろから、非日系の入学が増えている。日本語の文化が好き・安心して預けられる所、アニメに興味あるということで入ってくる。主に関心を持って入ってくるのは親が、躰の面がいいと、ということで入学することが多くなっている。

表1 アマンバイ日本語学校の生徒数

学年	日系		ハーフ /クォーター		パラグアイ人		ブラジル人		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
幼稚園	2	2	5	4	2	2	1	1	19
小学1年生	3	1	1	3	1	2	3	0	14
小学2年生	0	2	2	0	1	0	0	2	7
小学3年生	1	1	2	1	1	1	2	0	9
小学4年生	1	1	0	4	0	0	0	0	6
小学5年生	2	1	1	0	0	1	0	0	5
小学6年生	2	1	0	1	0	0	0	0	4
中学1年生	2	0	1	2	0	0	0	0	5
中学2年生	2	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	15	9	12	15	5	6	6	3	71

登校する生徒は、ハーフが 27 名、パラグアイ人 11 名、ブラジル人 9 名、日系人 24 名、現在合計 71 名である。ほとんどの子が日本語を全く話せない状況で入学してくる。

3. 運営の厳しさ

5 年前から、生徒数が減り、運営に厳しくなる。教師生活も大変になる。そのため、いろいろ工夫し授業の内容に力を入れ、日本語学校が楽しいスペイン語学校やブラジル学校にない経験をすることを児童に話し、日本語を学ぶ大切さを教える。

その他、パンフレットやポスターを作り、主な商店街に張りアピールもした。ここ 5 年目ぐらいから、口から口へと渡り入ってくるようになった。「なぜ日本語学校に入りたいのか」と聞くと、羨の面がいいからという父兄の声が多い。また、学校行事などを見て、現地校と比較してやはり生徒の姿勢や主催者のてきぱきとした行動に関心を持つようになり、少しずつ生徒が増えている。

4. 現在の教師（教師不足）

教師不足もあり、インターネットで募集しインターネット教師を派遣したり、日系青年ボランティアを JICA から来ていただいたりしていた。しかし、インターネット教師はいろいろと彼らの目的とこちらの目的が違いいろんな問題も起きた。

4 年前までは、JICA ボランティアも派遣されていた。しかし、現在は首都まで来ているのに「アマンバイは危険地域」ということで、現在は未定の状況である。

ここ 2・3 年ぐらいは地元の先生が頑張ってくれている。この地元の先生は本校の卒業生であり、私の教え子たちでもある。2 世から 3 世の教師である。しかし、残念なことに 12 年間勤めている教師が来年辞めることになる。やはり、給料が少ないことにより生活の面に影響することが原因である。

5. 授業日数・登校日

幼稚園 小学生	火～金	8:30～11:00	午前
小学生	火～金	1:30～4:30	午前／午後
中学生	火～金	5:30～8:00	午後

週 4 日制、国語教育と日本語教育で行われる。3 時間授業。

* 小学生の午前に登校する子は、午後登校できない子たちである。

その他、月一回の文化活動。書道と絵画を行う。

尚 5 月 23 日は、入植記念日として移住学習を行う。

6. 日本語学校目標と生活習慣目標

教育目標

- ・ 校訓：規律・礼儀・公徳
- ・ 日本語による会話及び読み書きができ、
- ・ 日系人である自覚と教養を身につける。
- ・ 日本語がよく理解できる子を育てる。

生活習慣目標

- ・ 日本語で話せるようになる。
- ・ 挨拶・返事・感謝の気持ちを養う。
- ・ 積極性や自律性を養う。(ボランティア精神)
- ・ 学ぶ楽しさを与え、安心して学べるようにする。
- ・ 学校をきれいにするように心がけさせる。

7. 幼稚園授業目標

- ・ 日本語の会話・聞き取りができるようになる。
- ・ 遊び・音楽・読書・ビデオを通して日本の文化に触れ、日本語を学ぶ楽しさを 与える。
- ・ 集団行動と団体行動に なれるようになる。
- ・ ひらがなが 読めるようになる。

8. 幼稚園授業内容

幼稚園の年少組のステップ1「なれる」。

まず園内生活に慣れることが第一の目標である。日本語に触れたこともない子たちに幼稚園生活になれ、新しい言葉を聞くことになれ、友だち関係になれ、行事や躰の面にもなれていくということで、語彙は日常生活使われている言葉を主に教える。

幼稚園年中組み ステップ2 「いえる」

年少組から来ている子は、今まで学んだことが言えるようになるということが目的である。ひらがなの「な行」まで読めるようになることである。

年長組のステップ3 「使える」

日常会話により少しずつ日本語で話し使えるようになることが目的である。

ひらがなは「あ行からわ行」まで読めて卒園、ということである。

＊幼稚園のころから、挨拶／返事がきちんとできるように指導している。

躰の面に厳しくしている。

9. 小学生 国語教育の授業内容

- ・ 小学生の国語の授業のパターンは、新出漢字読み書き指導。
- ・ 言葉の意味の理解や使い方の指導。
- ・ 音読力がつくように指導。
- ・ 読解に力をつけるため、文章の内容理解や読み取りの指導。
- ・ その単元に出てくる文章により感想文や日記・作文を書いたりする。
- ・ 単元ごとに必ずテストを行う。
- ・ 教材は各教師の私教材、ドリル、ネット教材などを利用。
- ・ 能力試験対策。

10. 小学生 日本語教育の授業内容

会話が中心ですが、文章力もつけ読解の力もつけるように勧めている。能力試験対策を実施し、中学を卒業するときは、N2 程度で卒業できるように願っている。教材は、にじ・みんなの日本語 I / II、その他インターネット教材や私教材を使い行っている。

11. 年間行事

- 2 月 入学式・・・勉強や寝や掃除の面で関心を持って入学する子が増えてきている。
- 3 月 第 1 回授業参観日・・・授業の姿勢や各生徒の学びについて父母の方たちと相談する。
- 4 月 スポーツ大会
- 5 月 子供の日/家庭訪問・・・子どもたちの性格/家庭での生活を知る
子どもの教育について一緒に考える。
- 6 月 校内スピーチコンテスト・・・勇気/発表力/発音/暗記力をつけることが目標。
バザー（資金集め）
- 7 月 学芸会（抽選会）・・・集団行動/団体行動/暗記力に力を身に付けるようにする。
冬休み
- 8 月 期末テスト
全パススピーチコンテスト
- 9 月 運動会・・・子どもたちが楽しみにしている行事。
集団行動・高学年や中学生は係りの役割を果たす力をつける。
- 10 月 第 2 回授業参観日
- 11 月 期末テスト
能力試験対策
- 12 月 能力試験 / 卒業式

修学旅行 5/6 年国内・中 2・3 年海外・・・この年を楽しみに最後まで通う子もいる。
夏休み

12. 中学生の新たな取り組みについて

幼稚園から中学生まで、勉強する子は当たり前であったが、ここ 10 年ぐらい前から、途中で辞める子が増え、中学 3 年まで登校できず卒業する子が少なくなった。そのため、いろんな対策を練って新たに中学生まで、日本語の勉強が学べるようにと改善した。

下記の取り組みがそれである。

中学生授業について 新たな取り組みを考えなければならい、状況は何か
- 生徒出席率を見ると、ほとんどの生徒が授業日数にかなっていない。 - 今年はやめるという子たちもいた。 - 現地校の授業があつたり 課題が多くなり来れなくなつて来ている。 - 英語を学びたい。 - 日本語学校で学ぶ興味関心が薄れてきている。
日本語学校に来るようにするための対策を考えなければならない。
- 何を改善するのか。 - どんな授業にするのか。 - 何ができるようになるようにするのか。 - 生徒が求めていることは何か。 - 保護者が求めていることは何か。 - 学校や日本人会が求める学校像は何か。

12.1 中学生児童生徒の確保の工夫

登校時間を変更。午後：17:30～18:30

授業内容 改善。

未来へ広がるような学習にする。

学びを定着させる。

考えさせる授業にする。

パワーポイントなどを使って発表する。

地域を知って、移住者の気持ちを教える。

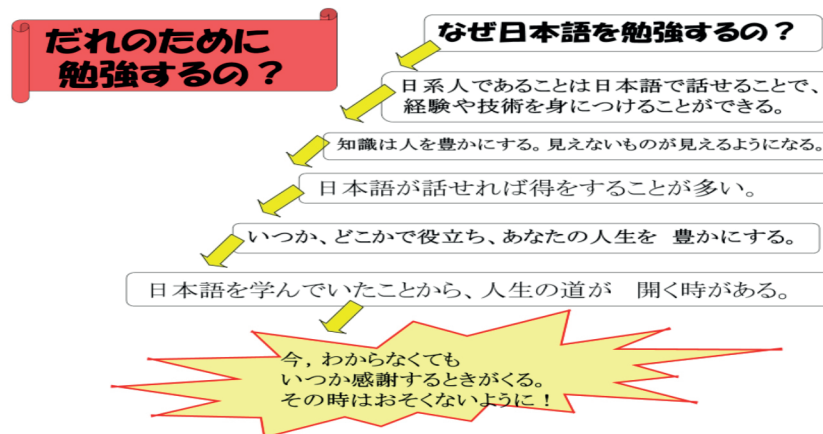
移住学習、体験学習などで自分の住んでいる町の発展に考えるようにする。

生活していく中で体験する学習にする。

日本人のマナーを知る。伝統的な習慣の学びをする。

12.2 誰のために勉強するのか自覚させる

生徒自身が日本語を学ぶことが、あたり前になっている子や親の希望により学んでいる子もいる。そうした子どもたちは、日本語の学びに進歩がない。そのため日本語を学ぶ大切さを各自に理解させるために下記のようなことを話している。



12.3 中学生授業内容

中学年1年～2年 中学生授業内容	
《表現力》 ・プレゼンテーション（発表） ・ドキュメンタリー ・ディスカッション ・スピーチ/作文コンクール ・感想文	《伝え合う力》 ・反省会 ・評価 ・会議の持ち方 ・リーダー育成 ・ようこそ先輩
《文化／伝統的な言語》 ・移住学習 ・行事／習慣 ・道徳	《理解力／思考力》 ・日本語N 3 -N 1 [漢字/読解/文法/会話]
	《伝統的な習慣やマナー》 ・式のマナー：（結婚式／告別式など） ・贈物：お返し・お見舞い/挨拶など
《リーダー育成》	

このような新たな授業の取り組みから、今年で3年目になるところ。教師不足の中十分な授業になっていないけれど、これまでのやり方より出席率も約 100%と言っていいほど休む子が少なくなった。

12.4 卒業した子たちの声：

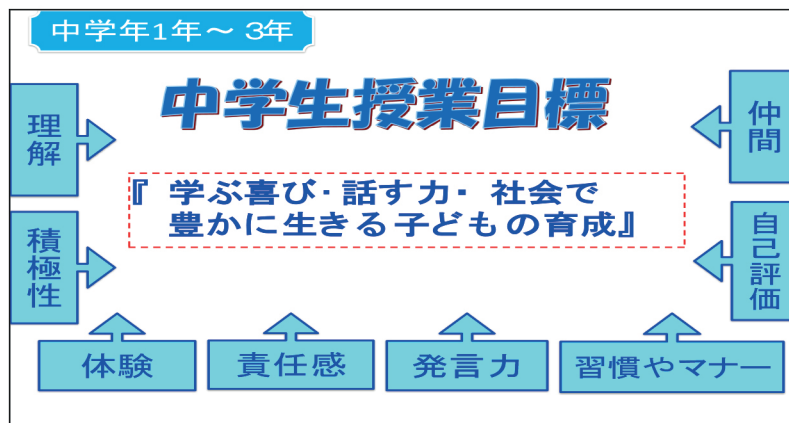
- ・ パワーポイントの授業はとても役立っている。
- ・ 自分の進路に考える機会にもなっている。
- ・ リーダーになる難しさを感じている。

- ・ ずっとこういう授業を受けていたらよかったと思う。
- ・ 現地校での発表のとき、どうどうと発表できるようになった。など

12.5 ようこそ先輩の広場

- ・ ようこそ先輩の広場の目的は、日本語を学ぶ大切さを自覚させるため。
- ・ 先輩の話を聞いて、その大切さを学んでほしいということである。
- ・ 地域に貢献する大切さを知ってもらうためである。

12.6 授業目標



- ・ 日常の授業の中で、日本語の理解を深め、積極的に行動ができるように指導している。
- ・ 責任感のある子はどのような子なのか、そのつど生徒の態度などを見て教えている。
- ・ 発表やディスカッション やスピーチにより発言力をつけている。
- ・ 行事等では自分たちでリーダーの大変さ、集団行動、団体行動などを体験させる。
- ・ 行事の後は、自己評価をさせ、反省させるようにしている。
- ・ 日本語学校で一緒に学び共に活動する仲間の大切さを学んでほしいと思い指導している。

13. 卒業後の生徒たち



- ・ 卒業後の子どもたちは、現地の高校に通っている子や受験勉強に励んでいる子もいる。
- ・ 90 年ごろは、卒業もしない中でも日本へ出稼ぎに行った。
- ・ 出稼ぎで日本へ行った子たちは、日本語で話せるため、言葉の不自由はしていない。
- ・ 現在日本の会社で課長・部長・事務の仕事や翻訳・通訳などをして活躍している。
- ・ 彼らから聞く声は、日本語学校で勉強していたことが日本でためになっているということである。こうして、日本で幅広い面で貢献している。
- ・ 2000 年以降からは、日本行きの出稼ぎはとどまり、帰国して貢献している子たちもいる。
- ・ 国境の町に住んでいるということではほとんどの子は、ブラジルやパラグアイの大学に行っている。
- ・ 言葉はスペイン語・ポルトガル語・日本語を日常で聞いて話せる。その他英語を習っている子もいる。グアラニ語はスペイン語学校に行っている子は科目として学んでいるがほとんど使えない。
- ・ 大学を卒業している子は、医学・弁護士・建築・エンジニア・理学療法士・看護婦・商売・農業・自動車修理・歯医者・教師・薬剤師・経済・コンピューター関係勉強やすでに卒業してこの町で貢献し活躍している子もいる。アマンバイの町やアスンシオン・サンパウロ・クリチバ・カンボ・グランデその他の町でも活躍している子もいる。
- ・ わたしたちの願いは、多くの子どもたちが将来社会の幅広い方向で、日本語学校で学んだことの大切さに、気づきどこで生活していても、その場所で貢献してくれるうえに、その子たちの子どもへと伝え、日本語が継続していくことを願っている。